

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：17102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H07036

研究課題名(和文) 中国都市部における家族のケアの外部化と資格化 家事・ケア労働者を中心に

研究課題名(英文) Externalization and Qualification of Family Care in Urban China: Housework and Care Workers

研究代表者

翁 文静(weng, wending)

九州大学・アドミッションセンター・助教

研究者番号：80780072

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000 円

研究成果の概要(和文)： 家族のケアの外部化・資格化のプロセスと内容を明らかにした。ケアの外部化現象は月嫂から始めていた。育児嫂・医療養老護理員も類似のプロセス(市場需要、民間企業の養成・派遣、政府の介入)を辿っている。三つの養成内容の共通点は、西洋近代医学の内容が多さである。家事・ケア労働者の実践も考察した。養成訓練時に、生徒らが国家資格を取得するため積極的に学んでいる。職場においては、これまでの学びに批判し、新技術を作り出す人もいる。外部化・資格化の影響・問題点についても分析した。影響は都市部女性の高い就業率の維持と地方女性の就業率の増大である。問題点は人手不足・サービスの質の低さ、法律・規定の不備等である。

研究成果の概要(英文)：1) This study clarified the process and contents of externalization and qualification of family care. The externalizing phenomenon of caring began with yuesao. Child caring helpers and medical helpers of aged people followed similar process in terms of market demands, training and dispatching of private companies, and intervention of the government). The similarity of the three is the western medicine. 2) I also examined the practices of housework and caring workers. The students study actively in order to obtain national qualification during training. There are people who criticize the learning in the past and create new technologies at their workplace. 3) Furthermore, I analyzed the effects and problems of externalization and qualification. The effects are the stable and high employment of urban women and the increased employment of local women. The problems are the labor shortage, low quality of services, and defects of laws and rules.

研究分野：教育人類学

キーワード：家事・ケアの外部化 家事・ケアの資格化 中国都市部 家事・ケア労働者 育児と介護 格差 実践 質的調査

1. 研究開始当初の背景

(1)これまで家事・ケアの外部化・資格化に関する研究は、外部化・資格化の背景、その変容、及び様々な問題を明らかにしつつも、家事・ケア労働者の実生活を対象としていないことで、家事・ケア労働者にとっての外部化・資格化の意味、そして、彼女たちの活動の実態を捉えきれていない問題があった。申請者は、これまで、中国伝統的な養生習慣である月子（出産後一ヶ月の間、産婦が起居飲食において守らなければならない一連の規範と禁忌のこと）の変容及び、月子期間中に、母子のケアを担う家事・ケア労働者・月嫂の資格化や彼女たちの果たす役割に着目して長期的な参与観察を行ってきた。

(2)現在申請者は、月嫂の雇用環境や変化などについて補足調査を行いながら、乳幼児及び高齢者のケアの担う家事・ケア労働者を新たな調査対象とし、中国都市部における家族のケアの外部化の現状やその問題点などを捉えようとしている。

2. 研究の目的

中国都市部における家事・ケア労働者、特に妊産婦・新生児、乳幼児、高齢者などの家族のケアに関わる女性達（中国語ではそれぞれ、月嫂、育児嫂、そして医療養老護理員と呼ぶ）を取りあげる。本研究は、まず、(1)マクロな視点から、中国都市部における家族のケアの外部化・資格化のプロセスや内容を明らかにし、次に、(2)ミクロの視点から家事・ケア労働者の立場に立ち、彼女たちの行う具体的な実践を考察した。最後に、(3)ケアの外部化・資格化がもたらす影響や問題点についても分析した。

3. 研究の方法

文献収集とともに、中国都市部上海における現地調査においてデータ収集を行った。(1)文献収集に関しては、日本国内で入手できる先行文献とともに、中国現地でのデータや資料をも収集した。

(2)現地調査に関しては、申請者は、上海市の最も規模の大きい家事・ケア労働者養成トレーニング(Hトレーニング)で育児嫂、養老護理員を目指す女性たちとともに、養成訓練を受けた（参与観察）。その際に、家事・ケア労働者の概況、特徴を把握するため、75名の女性に対してインタビュー調査を行った(量的調査)。さらに、家事・ケア労働者の行う実践を明らかにするため、75名の女性の中から、年齢、出身地、学歴、家事・ケア歴などを配慮し、10名の女性を選び、観察や聞き取り調査を行った（質的調査）。

4. 研究成果

(1)中国都市部における家族のケアの外部化・資格化のプロセスや内容について

家政サービス員の外部化・資格化とは中国では家庭に入り、サービスを提供する「管家」、「佣人」、「保姆」と呼ばれる家政婦が昔からあった一方で、現代の家事・ケア労働者は家政サービス員の一種類であり、かつての「管家」と明らかに異なる。国家労働局及び社会保障局の配布した「家政サービス員国家職業標準(2000年)」によると、家政サービス員とは「顧客の要望に従い、各家庭において家事全般を担当し、児童、老人、病人の世話をし、家庭の様々な仕事に携わる人員」と規定されている。また、大橋(2011)によると2000年に労働・社会保障部は家政サービス員の国家職業基準を設け、初級・中級・高級の3段階の等級に応じた家政サービス員の資格検定を実施し始めた。国家職業基準(2006年度改訂版)は家政サービス員のレベルを技能に応じて初級・中級・高級の3種類に区分し、検定試験を設けている(大橋2011)。

しかし、「家政サービス員国家職業基準」及びその検定試験の試験範囲は労働・社会保障部に設定されながらも、中国の各地域では独自の養成、検定試験を実施している。例えば、上海市の労働・社会保障局が「家政サービス員国家職業基準」を参考とし、先進的な「1+X」検定モデルを作成している(1とは労働・社会保障部の設定した基準と試験範囲であるが、Xとは上海に適応した追加基準と試験範囲)(翁2017)。

家政サービス員の外部化・資格化のプロセス-上海市に置ける家事・ケア労働者を中心に-

ここでは、家政サービス員の中、家事・ケアに関わる月嫂、育児嫂、そして医療養老護理員の資格化のプロセスをまとめる。

月嫂に関しては、80年代末から90年代初めにかけて中国の各都市で出現し、親戚もしくは近隣の女性が世話を必要とする産婦宅で手伝いをしたことが月嫂の始まりと言われている。90年代に入ると、月嫂を養成、派遣する企業が登場し、月嫂による月子期間中の母子の世話が普及し始めている。2000年以降、都市部の政府関連部門が月嫂の養成に介入し、月嫂の国家資格の取得を要求されることになった。

育児嫂及び医療養老護理員も月嫂と類似のプロセス(市場需要、民間企業の養成・派遣、政府の介入)を辿っている。しかし、この3種の家事・ケア労働者の資格化は同時ではなく、月嫂、育児嫂、医療養老護理員という順番で進められてきている。その背景には、市場の需要や国家の福祉政策の実施時期、養成人員の飽和状況などが挙げられる。

家事・ケア労働者の養成プロセスと内容
月嫂の養成プロセスは大きく、養成訓練、試験、特別訓練、病院での研修に分けられる(図1)。養成訓練(必須)の内容は「妊娠期ケア、分娩期ケア、産褥期ケア、哺乳期ケア、発達と早期教育、小児生活ケア、栄養と食事、新生児疾患、嬰兒疾患、事故防止・予防」に分けられる。これらの内容はさらに座学と実技という二つの形式において学習される。試験は2ヵ月に一回に行われるが、パソコンによる理論的な知識の試験と面接官らによる技術の試験という二種

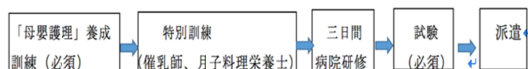


図1 月嫂の養成プロセスは。

種類の試験がある。二種類の試験とも合格すれば、上海市人力資源・社会保障局の発行する証明書が交付される。

育児嫂の養成プロセスは月嫂と比べると簡素であり、大きく養成訓練(座学と実技)と試験である。養成訓練の必要時間は計12日間である。育児嫂養成訓練の内容は大きく「育嬰員」の職業道德、生活世話(飲食・栄養、睡眠・排泄、着衣、抱く、清潔)、保健と医療(発育、予防接種、疾病の発見とケア、意外傷害の予防)、教育(生活スケジュール、動作と運動、言語・認知、感情と社会性)の4つに分けられる。育児嫂(初級)養成の形式と試験は月嫂とほぼ同様である。

医療養老護理員の養成プロセスは大きく、養成訓練(必須)、老人ホーム・病院での研修(必須)、試験(必須)に分けられる。医療養老護理員の必要時間は計19日間である。訓練の主な内容は、概論、基礎知識(医学、健康基準、介護)、高齢者の世話・介護の技術(消毒、居住環境整理整頓、身辺の世話、医療的な処置、移動・排泄技術)リハビリと救命措置技術基礎である。これらの内容は座学と実技に分けることができる。訓練形式も試験も月嫂、育児嫂と同様である。

(2) 家事・ケア労働者の実践

ここでは、田辺(2003)の「実践」という枠組を用いる。「実践」の視点を応用して、家事・ケア労働者に関わる具体的な言葉、モノ、道具、社会関係に注目することによって、彼女たちがいかに資格化されたケアを習得・実践しているのかを養成訓練時の習得・実践および、職場での実践に分けて考察する。

養成訓練時の実践

養成訓練時は主に座学と実技に分かれている。座学とは講師が教科書を使い、生徒に対する講義を行うことであり、実技とは特定のケアの手順を言葉にしながら、また、模型・人形に声をかけながら、具体的な行

為(乳幼児のオムツ換え、高齢者の車椅子への移乗など)を行うことである。

座学においては、生徒たちが講師の指示に従い、教科書に書かれた知識を理解し、暗記できるように努力する姿が観察できた。医療、教育などの専門用語が目前にした生徒がこれらの専門用語を自分の持っている日常用語に置き換える・言い換えることも多い。

実技においては、生徒らはまず講師の「原型行為」を観察し、その後、グループごと(4、5人程度)に練習していく。その間、講師が各グループを回り、生徒らの指導を行う。「原型行為」を真似できない生徒に対して、講師が指摘したり、直接生徒の体を動かしたりして、「原型行為」を教え込む。

以上のように、生徒が国家資格の取得という目的を持ち、講師の教えを積極的に受け入れている。

職場での実践

トレーニングセンターで習得した知識・技術を実際の仕事に役に立つかどうかについて協力者に聞いた結果、「研修を受けて沢山知識を知ってよかった」、「知らないより、知った方が良い」、「学んだ知識などを雇用者に説明するとよく理解してくれた」、「仕事に役に立つ」という意見が多かった。

一方、トレーニングセンターで習得した技術に批判的な意見を持つ家事・ケア労働者もいた。例えば、高齢者用のシーツ交換について、養成訓練時には、ホテルのベットメイクと同様の複雑な手順を要求されている。ある家事・ケア労働者が「私が高齢者に家に行く時に、ゴム付きのシーツを交換した。トレーニングセンターで学んだシーツ交換は10分もかかるのに対して、高齢者宅ではわずか3、4分で終わらせた。時間の節約ができ、シャワーなどの手伝いをした」、「我々がトレーニングセンターで学んだものは試験(国家資格)のためのものであり、多くは使えない」と語る。

また、別の家事・ケア労働者が車椅子への移動介助について以下のように語った。「トレーニングセンターで一つのやり方しか教えてなかった(写真1)。使えない場合が多い。色々高齢者に関わっていると、みんなそれぞれ違う。半身麻痺の人もしれば、太った人もいる。高齢者一人一人の身体、状況に合わせて、介助移動の仕方を自分自身で何通りも作らないといけない。」



写真1 ベルトを掴む介助移動実技

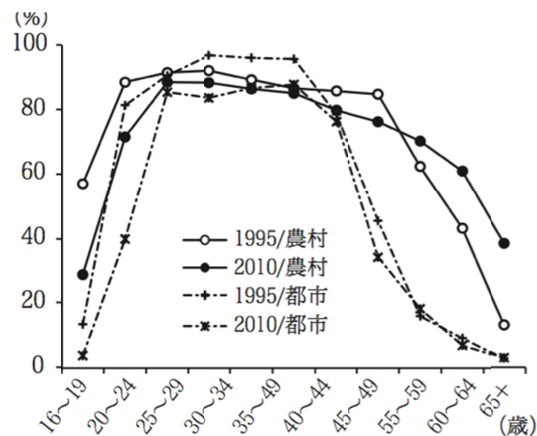
さらに、トレーニングセンターで学んだ知識・実技を殆ど職場で使えない家事・ケア労働者もいる。ある家事・ケア労働者が高齢者の腐った足の薬交換作業を担当させられた。その際に彼女が「私が使っている薬も道具も、薬交換のやり方もトレーニングセンターで学んだものではない。高齢者の家族が私に一から教えたもの」、「これは本来看護師がやる医療行為だが、末期ガンだから、自宅で最後を迎えるという家族の意思で、私を雇われた」と説明した。

(3) ケアの外部化・資格化がもたらす効果と問題点

ケアの外部化・資格化がもたらす効果

ケアの外部化・資格化がもたらす最も顕著な効果は都市部女性の高い就業率の維持と地方女性の就業率の増大である。

中国では、子どもと高齢者のケアをめぐる環境が大きく変容している。一昔前には、複数の兄弟で分担して老親の世話をしていたが、「一人っ子政策」の実施に伴い、若い夫婦二人で四人の老親の面倒を見なければなくなる。また、子どものケアに関しても、核家族化の進行、孫の世話を厭う高齢者の出現、0-3歳までの養育施設の欠如などによって、母親が子育てを専業する必要が出てきた。しかし、中国都市部の女性の就業率を見てみると、青壮年の都市女性の労働市場からの退出が増えるという指摘（嚴 2016）があったものの、依然として台型を維持し続けていることがわかる（図2）。都市部女性の高い就業率を支える一つの要因は家族のケアを担ってくれた地方の出稼ぎ女性の存在である。ヨーロッパでアジアの一部国では、経済成長が女性の労働力を必要とし、かつて女性が担っていた家事を代替するために海外から女性を受け入れるようになった（安里 2009）。中国では、海外の女性ではなく、格差に基づき国内の地方出身の女性が同じ役割を果たしていると言える。



（出所：嚴 2016）

図2 女性の年齢階層別就業率

都市部家族のケアを担う地方出身の女性に目を転じてみても、彼女たちの就業率も増大していることがわかる。周知のように1978年からの経済改革以降、中国国有企業改革が加速し、失業者が大量発生した。薛(2008)によれば、中国政府は都市失業問題を経済、政治、社会の安定のための基本問題と認識し1990年から雇用政策を取り始めている。上海市でも人力資源・社会保障局、上海市婦女連合会などの組織が90年代に入ってから、上海市の失業者の職業訓練、就職斡旋、就職しやすい第3次産業の推進などにも力を入れ始めている。例えば月嫂養成費用の無料化（地方出身女性は一部負担）、資格を取った女性への職場の紹介などである。しかし、近年になると、上海出身の失業者の高齢化が進み、家事・ケアの資格を受けるのは殆ど地方出身の女性である。つまり、都市部でリストラされた女性を再就職するために作られた家事・ケアの資格が今になって、地方出身の女性の新たな雇用につながるものとなっている。

ケアの外部化・資格化の問題点

家事・ケアの資格化の問題点については、近年、人手不足とサービスの質の低さ、法律・規定の不備などを中心に指摘されている。

唐(2005)によれば、家事・ケアサービスは政府の再就職政策と絡み合い、助成金などの手厚い補助制度があるものの、地方出身者らは必ずしも家事・ケア労働者を目指すという訳ではない。そのため、都市部においては、需要が多く供給が少ない、いわゆる「保姆荒（「家事・ケア労働者」不足）」の現象が起きている。家事・ケア労働者の不人気について、唐は「都市部と農村部において、人々が家事・ケア労働者を見下し、彼女たちは昔の使用人と見なししているため」と分析している（唐 2005）。

家事・ケア労働者の質を見てみると、李（2008）は家事・ケア労働者全体の学歴が低く、一部の人が専門的知識や技能も持っておらず、雇用者とのコミュニケーションをとることもできないと述べる。

2008年、世界的な金融危機の影響で、中国東沿海部にある数万軒の工場が倒産となり、大量の農村戸籍者が失業に陥った。それを受け、中国の経済学者湯敏は家政サービス業が建築業の次の大きい業種となると指摘した。しかし、李の指摘通り、「家政サービス業は新しい産業であるため、関連法律や規定などまだ制定しておらず、サービス内容、規範、価格などの面においても適用できるものがない」、また「家政サービス業の発展に伴い、仲介会社が大量に誕生しているにもかかわらず、仲介会社に関する規則も欠けている」ことが見受けられる。それに加えて、「家政サービス員」個人に適用できる法律もない。例えば、家事労働者は労働法に適用されないため「長時間の重労働に課せられ」、「人格も傷つけられる」恐れがあり、さらに「対人賠償責任保険と人身傷害補償保険も持たないため、万一事故が起きた場合でも保険金を支払うことも賠償してもらうこともできない」と指摘されている（王・呉 2009）。

(4)まとめ

本研究は、まず、(1)中国都市部における家族のケアの外部化・資格化のプロセスや内容を明らかにした。

中国都市部における家族のケアの外部化現象は月嫂から始めていた。80年代末から90年代初めにかけて、市場の需要から、月嫂が誕生した。当時は主に民間企業が月嫂を養成し、派遣していたが、2000年以降になると、政府が月嫂業に介入し、国家資格を作られるようになった。育児嫂の資格化は月嫂とほぼ同じ時期であったが、数年前から、月嫂の氾濫と市場の需要により、人気を集まるようになった。

また、ここ1、2年、高齢化対策の一環として、医療養老護理員の資格も新たに作られている。

月嫂、育児嫂及び医療養老護理員の養成内容は各々異なるが、共通点もある。それは、西洋近代医学に基づく内容が多いことである。その意味で中国都市部における家族のケアの外部化・資格化と同時に、医療化もが進んでいると言える。

本研究は次に(2)家事・ケア労働者の行う具体的な実践も考察した。

養成訓練時に、生徒たちが国家資格を取得するため、トレーニングセンターで提供する知識・技術を積極的に受け入れている。職場においては、これまでの学びは役に立つという意見も多いが、疑問を感じ、批判を口にする家事・ケア労働者も現れる。中

には、現場に対応するため、自ら技術を作り出す女性もいる。

本研究は最後に、(3)ケアの外部化・資格化の影響や問題点についても分析した。

家事・ケアの外部化・資格化がもたらす最も顕著な効果は都市部女性の高い就業率の維持と地方女性の就業率の増大である。

また、家事・ケアの資格化の問題点については、近年、人手不足とサービスの質の低さ、法律・規定の不備などである。これらの問題点に加えて、地方に残された家事・ケア労働者自身の家族のケアという問題も顕在化している。

<引用文献>

中国語

李 艳梅「我国家政服务业的现状分析与规范化建设」『社会化学家』2008

唐 友华「发展家政服务满足日益增长的社会需求」『决策咨询通讯』2005

王 竹青・呉 道霞「论家政工的劳动权利」『妇女研究论丛』2009

日本語

安里 和晃「国際ケア労働市場の形成-制度的・構造的観点から」長野ひろ子・松本悠子（編著）『経済と消費社会』明石書店 2009

大橋史恵 2011『現代中国の移住家事労働者 農村-都市関係と再生産労働のジェンダー・ポリティクス』御茶の水書房

翁 文静「中国都市部における家族のケアの資格化 - 上海市の「家政サービス員」の養成を中心に - 」『国際教育文化研究』Vol.17 2017

薛「中国の農村と都市における就業率およびその決定要因：CHIPS1988-2010に基づく実証分析（特集 中国農業大転換）」2016 嚴 善平『中国21』44, 81-104, 2016-03 愛知大学現代中国学会 2008

田辺繁治『生き方の人類学』講談社 2003

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 1 件）

翁 文静

「中国都市部における家族のケアの資格化 - 上海市の「家政サービス員」の養成を中心に - 」『国際教育文化研究』査読無 Vol.17 2017pp1-14

〔学会発表〕（計 1 件）

翁 文静

「中国都市部における家政サービス員のケアの知識と技術の習得 - 上海市 R トレーニングセンターをフィールドにして - 」九州教育学会第 69 回大会 2017 年

6. 研究組織

(1)研究代表者

翁 文静 (weng, wenj ing)

九州大学・アドミッションセンター・助教

研究者番号： 8 0 7 8 0 0 7 2